

IV 学生支援組織

1 教務部（教務課）

1. 役割・職務

本学の学生が本学の教育理念のもと、教育課程に従い単位を履修し、卒業または修了することが出来るよう支援し、その学籍を保管する役割を担う。

具体的には以下の職務を行う。

- 1) 学籍に関すること
- 2) 成績に関すること
- 3) 教育課程の編成、授業の実施に関すること
- 4) 国家試験に関すること
- 5) 入学試験に関すること
- 6) 国際交流に関すること

2. 活動内容

上記の例年の業務に加え、今年度は以下のことを行った。

- 1) e-ポートフォリオ（manaba course 2）の導入において、中心的な役割を担い、導入への合意を得、次年度からの運用に向けて、教職員を対象とした研修会の実施等を行った。
- 2) 2013年度入学生より、GPAによる評価を学生への通知表に記載し、学生による成績の自己管理を促すとともに、成績認定会議に表示し評価を行った。
- 3) 修士課程看護教育学上級実践コースの新規開講にともない、聖路加国際病院看護師を対象とした特別入試を実施し、5名の入学予定者を決定した。病院内に学部実習担当者を育成し、実習体制の強化をはかっていく。
- 4) 2014年度および2015年度の公衆衛生看護学実習について、新たな実習施設の開拓を行った。遠隔地における実習については宿の確保を行った。2月に実習のオリエンテーションを実施し、総合実習、公衆衛生看護学実習、養護実習の希望をとり、実習場の振り分けを行った。
- 5) 最終年度となった「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」によるチームビルディング力育成合宿セミナーが、昨年と同様に2泊3日でミシガン大学から講師を招聘して実施され、その事務処理を行った。

6) 多様な学生の学びに関するプロジェクトのメンバーの中心的な役割を担い、後期半年間にわたる看護学実習の支援を行った。

7) 実習科目の充実と質の向上、および学士編入学制度の短縮を目的としたカリキュラム改正への取り組みを開始した。

3. 課題

- 1) 今後、アクティブラーニング型の授業が増えていく中で、大学全体の部屋の割り振りや使い方、教室の仕様を継続して検討していく必要がある。
- 2) 書類や物品の整理や保管が最優先の課題であったが、日々の業務に追われ、手がついていない状況である。電子化を含め、今後も、教務課全体で検討していく必要がある。
- 3) 公衆衛生看護学実習が2014年度実施され、特に遠方での実習が入ってくるため、円滑に実施できるよう事務処理を遺漏なく実施していく必要がある。
- 4) 学部学生および大学院学生の主体的な学習活動を支援するためのe-ポートフォリオが導入された。今後は、本学の教育の中に無理なく導入していけるよう、環境を整え、支援していく必要がある。
- 5) 実習科目の充実と質の向上、および学士編入学制度の短縮を目的としたカリキュラム改正案について、2015年度より実施できるように進めていく必要がある。

(1)カリキュラム運用委員会

1. 役割・職務（カリキュラム運用委員会規程）

本学の教育理念のもと、現行の看護学部教育課程の運用および編成に係る事項について所用の審議を行い、必要であれば教授会に上程する。具体的には、以下のことを審議する。

1. 教育課程の編成に関すること
2. 授業科目および実習の実施に関すること
3. 時間割の編成に関すること
4. 前各号に係る評価に関すること
5. 単位の認定に関すること
6. 非常勤講師、臨時助教の採用に関すること

7. 学生の履修状況に関すること
8. その他教育課程に関すること

2. 活動内容

定例会議11回の委員会を開催し、例年の上記審議事項の他に、以下について審議を行った。

- 1) 現在利用している体育館が2年後に閉鎖となることから、保健師国家試験受験資格や養護教諭1種免許に必修となる「体育」科目2単位の履修方法について検討が行われ、理論を中心とした「体育Ⅲ」2単位を新たに開講することを教授会に上程し、2014年度入学生より「体育Ⅲ」を開講することになった。
- 2) 保健医療福祉行政論演習の担当者および授業方法について検討が行われ、担当教員が確保できれば今まで通りPBLの手法により継続して行うことを決定した。
- 3) 看護提供システムⅡで実施していた災害看護について、カリキュラム2011では、看護ゼミナールで災害看護を新たに開講することを決定した。
- 4) 2011年度および2012年度入学生に限り、保健国家試験受験資格取得希望者は全員が公衆衛生看護学実習を履修出来ることとしたため、公衆衛生看護学実習の実習場の開拓、実習環境整備の方法、学生の振り分けの方法等について、公衆衛生看護学実習プロジェクトからの提案をもとに決定した。
- 5) シラバスの第3者チェックを実施していくことが決まり、シラバス検討小委員会を編成することを決定した。
- 6) カリキュラム評価委員会を編成し、卒業生のカリキュラム評価を実施していくことを決定した。
- 7) 学部カリキュラムについて、2015年度より卒業所要単位数をスリム化し、実習の選択科目を増やすカリキュラムの検討を開始した。また、学士編入学制度を2年間に短縮するカリキュラムの検討を開始した。

3. 課題

- 1) 保健師国家試験受験資格選択者の新たな実習先を開拓し、実習先の振り分けを行ったが、実習がスムーズに実施できるよう引き続き対応を検討する必要がある。
- 2) 科目等履修生の養護実習1単位の開講について検討課題であったが、未だ検討されていない。科目等

履修生の開講の在り方とともに引き続き検討が必要である。

- 3) 2011年度からのカリキュラムへの移行期であること、さらに、新たなカリキュラムの移行を検討しているため、引き続き円滑な運用が出来るようにすることが課題である。

①実習単位認定者会議

1. 役割・職務

各実習レベルの実習単位認定者による学生指導を円滑に進めるための連絡会議

2. 活動内容

1) 実習の積み重ねの支援実習

実習レベルⅠからⅢの学生の実習状況について情報共有を行った。実習レベル目標達成度自己記入用紙を活用し、学生個々の課題を次のレベルの実習や次の領域実習に活かせるよう、継続して支援した。

2) 学生個々のニーズの支援

多様な学生の学びを支援するために、実習の支援体制や実習状況、実習施設との調整方法等について、実習レベル間・実習領域間で意見交換と情報共有を行った。また、実習レベルⅡの前に実施したアンケートから、学生の実習に向けての心配や不安等を把握し、健康管理室と連携して実習環境を整えて支援した。さらに、実習中に発生した要支援の学生に関しても情報共有を行った。

3) 実習中の安全確保

実習中に起きたインシデント・ハラスメントについて情報共有し、対応や予防策について意見交換を行った。インシデントに関しては、実習施設と大学側の実習内容の認識のずれから生じたと考えられる事案もあった。

3. 課題

- 1) 学生が各実習レベルの目標を達成できるよう、引き続き実習レベル間・実習領域間での情報共有と意見交換を行う。
- 2) 学生個々のニーズに対応できるよう、学生が相談しやすい環境や効果的な支援方法を検討する。要支援の学生の対応については、大学全体として統一した判断ができるような体制を検討する。

- 3) 学生と対象者の安全確保ができるよう、実習施設と実習内容の確認を継続的に行う。

②臨地実習Ⅱ担当者会議

1. 役割・職務

実習レベルⅡにおける学生指導を円滑に進めるための連絡協議

2. 活動内容

2013年4月9日と6月4日に構成員で会議を開催し、臨地実習に向けた準備と指導体制について検討した。

1) 実習オリエンテーションの実施内容の検討

カリキュラム変更に伴い、臨地実習オリエンテーションを1回のみ実施することとなったため、日程調整およびオリエンテーション内容の検討を協議した。

(1) 臨地実習オリエンテーション日時

2013年7月23日の12:40~15:20に実施した。

(2) 臨地実習オリエンテーションの内容

オリエンテーションの内容は以下とした。

- ①教務からのオリエンテーション
- ②全体オリエンテーション
- ③聖路加国際病院 Smile for の使い方
- ④安全に実習を行うために:感染管理
- ⑤安全に実習を行うために:ハラスメントへの対応
- ⑥健康管理
- ⑦各領域のオリエンテーション (各5分程度)

*具体的なオリエンテーションは各領域の実習初日または講義時間内で実施した。

*事前アンケートは、例年通り行い、そのインフォメーションもオリエンテーションのなかで実施した。

(3) 技術チェックおよび実習前自己学習

学生全員の実習前技術チェックは行わず、各領域で場所等を調節し、従来のように各領域からの分担教員は設定せずに自己学習期間を設けた。周産期看護学、小児看護学、老年看護学が自己学習内容を提示した。自己学習準備日として8月23日(金)13~15時、自己学習期間は8月24(土)、26(月)~29日(木)9~17時とした。

2) 実習指導体制について

聴覚障害を持つ学生の实習指導と、伴走者(手話通訳者)の調整について、情報共有と調整を行った。多様な学生の学びプロジェクトとも協働し、指導・支援体制を整えた。

3. 課題

- ・実習期間中に学生の学習上の課題等があった際に、教員間で効果的な指導方法について実習中でもシェアまたは伝達できるような場が期待されていたため、今後の課題とする。
- ・学生より自己学習の時期や期間について、より時間がほしいという声があった。学生が安心かつ安全に実習に臨めるように自己学習について再検討する必要がある。

(2)実習室委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学の学生が必要な看護技術を修得するために実習室の環境を整える。

- 1) 地下および6階実習室と教材が、学生の学習環境として整うように管理・運営する。
- 2) 実習室自己学習支援員を配置し、学生の自己学習支援を行えるように依頼・調整する。

2. 活動内容 (表1・2参照)

3. 課題

- 1) 実習室備品(ベッド、オーバーベッドテーブル、モデル類など)の老朽化が進んでいるため、今後、計画的に買い替えを行う必要がある。
- 2) 学部は新カリキュラム移行4年目となり新演習科目が開講し、大学院ではCNEコースが開始され、実習室利用状況がこれまでと異なる可能性がある。各種研究会等にも多く利用されているため、学生の自己学習環境の確保および整備が課題である。
- 3) 今年度は実習室支援員が継続的に確保でき、学生に有効な学習環境が提供できた。来年度以降も人材に努力していく。

4. 資料

表1:2013 年度実習室委員会活動内容

活動項目	活動内容
実習室支援員の確保・支援業務依頼・日程調整・勤務管理・学内周知	原則週2回、各1名の支援員が在室できるように調整した。勤務時間は学生の空き時間を考慮し、午前中からの在室日も設けた。掲示とメールで学内に周知した。
地下、6階の実習室インベントリ	3月12日(水) 10:00~17:00、教員(10:00-12:00) 学生アルバイト(10:00-15:00)、実習室委員(9:30-17:00) 計51名で実施。登録備品確認、不要物品の整理、修理依頼を行った。アーカイブ物品の登録を行った。アーカイブ物品は歴史編纂資料室管理として登録し、物品にアーカイブラベルを貼付した。
医療機器・教材の点検	①臨床工学士による医療機器の点検を依頼(7月、3月)、②蘇生・シミュレーター人形の点検を業者に依頼(2月)、③機器の充電、通電・作動点検を毎月確認(自己学習支援員による)。
物品の修理・破損物の処理	年間を通じて実習室物品・設備の修理や破損物処理の窓口となった。用紙を改善し修理・破損物報告方法の簡便化をはかった。
物品の貸し出し・実習室使用の調整	学内教員の教材・物品貸し出し表により貸し出しを把握。学生への貸出票(教務課保管)による管理。白楊祭や病院の研修等の貸出しの相談・調整・準備・返却確認を行った。
業者による清掃依頼・インベントリ一時の棚・物品の清掃	業者への清掃依頼(8月、2月):倉庫内ワックスかけ(2月)、ベット、床頭台、棚扉や枠等の清掃。インベントリ時(3月)は全棚内・教材物品類の清掃
全ベッドのリネンの洗濯・交換	8月、3月(2回)実施した。
実習室必要物品の購入・予算計上	実習室予算による物品の購入を行った。各領域からの要望聞き予算を計上した。
実習室環境整備	日々の演習室環境および倉庫の整備を行った。実習室マニュアルの見直し、修正を行った。6階アールームをFNF育成のための実習室として整備した。学習環境改善のために、他校の実習室状況についての情報収集、老朽化した実習室備品買い換えのための費用算出を行った。
実習室使用に関するアナウンス	①自己学習室マップの掲示とアナウンス、②実習室使用上のマナーの呼びかけ(掲示等)、③実習室に関連する情報のアナウンス
災害対策環境の整備	震災時に使用が予測される物品のマップ、懐中電灯の確認を行った。

表2:2013年度実習室自己学習支援員による自己学習支援件数(2013.4.1~2014.3.4) (延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	0	70	0	0	0	0	92	32	39	55	0	0	288
2年生	0	233	206	100	0	15	207	123	53	15	109	0	1,061
3年生	4	0	3	6	0	1	0	14	7	0	4	0	39
4年生	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
大学院	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6
計	4	303	227	106	0	16	299	175	99	70	113	0	1,412

(3)体育デー委員会

1. 役割・職務

- 1) 他の学年の人たちや教職員との親睦を深める。
- 2) 身体を動かし、気持ちの良い汗を流し、楽しむ。
- 3) 学生体育デー委員が主体となって体育デーの企画・運営を行い、教職員・顧問は学生委員のサポートを行う。

2. 活動内容

- 1) 4月に新入生委員の勧誘を行い、前年度の引き継ぎが行われた。
- 2) 企画・準備のため週1~2回昼休みに開催され、役割分担・種目・ルール決定、必要物品の準備、各参加者出場種目の決定、体育デーパンフレットの作成と配布などを行った。
- 3) 教員は毎回委員会に出席し、学生の自主的な活動

に向けたアドバイスや支援、教職員の出場種目の調整などを行った。

- 2013年度の体育デーは5月25日(土)中央区立総合スポーツセンターにおいて開催され、競技種目は、バレーボール、ドッジボール、台風の目、玉入れ、障害物競走、綱引き、チーム対抗リレーであった。
- 競技の結果は、1位：1年生と3年生(同点)、3位：2年生と4年生(同点)で、1位と3位の差は20点という僅差であった。

3. 課題

- ケガや事故などを防ぐための競技内容やルールなどについての検討。
- チーム対応リレーなど競技によっては参加する教職員が少ないので、教職員の参加者を増やす方策の検討。
- 学年間に参加者数の差がみられる。すべての学年の学生が参加したいと感じるようなプログラムづくりに協力していきたい。

(4)オリエンテーション・セミナー委員会

1. 役割・職務

新入生オリエンテーション・セミナーの企画、実施

2. 活動内容

1) 新入生オリエンテーション・セミナーの開催

本学学部入学生を対象として、本学の理念およびカリキュラムへの理解、上級生や教職員との交流、さらに、新入生相互の交流などの促進を目的に、2013年度新入生オリエンテーション・セミナーを、財団法人キープ協会清泉寮において開催した。企画・実施に当たっては上級生のオリゼミ委員と共同で実施し、またセミナー当日は教職員の協力を得た。

日 時：2013年4月5日(金)～6日(土) 1泊2日

場 所：財団法人キープ協会清泉寮(山梨県北杜市高根町清里3545)

参加者：新入生98名、上級生23名、教員19名

プログラム：

4月5日(金)

9:00 大学出発(バスで清里まで移動)
昼食後

13:30-16:45 グループワーク「聖路加看護大学入学のきっかけ」

17:00-17:30 タベの祈り(ケビン・シーバー司祭)

17:30-19:00 夕食(新館レストラン)

19:00-20:30 上級生企画・交流

4月6日(土)

9:45 朝の森の散策・礼拝(ケビン・シーバー司祭)

7:30-9:00 朝食

9:00-9:30 リングウォルト先生のお話

9:30-10:30 グループワーク発表会

10:45-11:50 フィールドワーク/昼食

12:00 清泉寮 出発

(バスで大学まで移動)

※悪天候に伴い、フィールドワークの時間を短縮して早めに清泉寮を出発した

2) オリエンテーション・セミナーレポート

新入生オリエンテーション・セミナーに参加した新入生の感想を冊子にして配布した。

3) アンケート結果

新入生アンケートでは、5点満点のうち「このセミナーに参加して満足でしたか」の問いの平均は4.6点であり、「このセミナーは必要だと思いますか」の問いの平均は4.8点であった。

3. 課題

1) 悪天候に伴い、フィールドワークの時間を短縮して実施し、清泉寮の出発を早めた。スケジュールの変更および帰校時間の決定が遅れたこと、およびフィールドワークを短縮した場合のルートや内容の変更を考えていなかったために、ルートの変更に手間取り、グループによってはフィールドワークから戻る時間が遅くなるなど混乱した。スケジュールを天候に合わせたいくつかのパターンで計画する必要があり、どのスケジュールで実施するかは、オリゼミ1日目の早い段階で決定する必要がある。

2) オリゼミ実施期間中に新入生の一人が体調を崩した。保護者が遠方である場合も考えられるため、体調不良者に対応できるようレンタカーを準備するなど対応が必要である。

3) 本年度はオリゼミを早退する新入生が2名いた。いつ早退するか早めに把握する必要がある。

(5) I R 室

1. 役割・職務

- 1) 学修時間・教育の成果等に関する情報の収集・分析
- 2) 入試に関する情報の収集・分析
- 3) その他大学の運営に関する情報の収集・分析

2. 活動内容

- 1) 2014年9月2日～9月30日の間で学部生全員に対し学生生活活動調査アンケート(無記名式)を行い、42名からの回答を得た。
- 2) 表1にあるデータを収集しグラフ化できるものはグラフ化した。収集したデータを共有フォルダに保存し、関係部署に公開を行った。
- 3) 保健師資格取得教育の調査を学内1年生～3年生、特別区保健師責任者、看護系大学14大学(3年生)への調査協力を依頼した。学内の学部生から217名の回答、特別区保健師責任者12名の回答、看護系大学に関しては5大学より調査協力承諾の連絡があり3年生向けに計377通のアンケートハガキを送付し、193通の

4. 資料・データ

表1

データ	データ内容
受験者数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の受験者数
合格者	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の合格者数
入学者数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の入学者数
大学院入学状況詳細	2008年度から年度ごとの大学院志願者詳細、入学者詳細
卒業生数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の卒業生数
創立からの卒業生数	創立からの学部、修士、博士の卒業・修了生数
在学生数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の在学生数 学部に関しては内訳に男子在学者数もあり
国家試験	2009年度から年度ごとの看護師・保健師・助産師国家試験の受験者数、合格者数、 本学合格率、全国平均の新卒合格率
留年・退学者・卒業延期者数	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の留年・退学者数 学部は卒業延期者数もあり
卒業後の進路先	2007年度から年度ごとの看護師・保健師・助産師・養護教諭等の進路先名
卒業生・修了生の動向	2009年度から年度ごとの学部生、院生(修士・博士)の動向
学生生活活動調査	2013年度9月に行った学部生への学生生活活動調査
博士論文題目一覧	1991年からの博士論文題目詳細、学位授与までの年数

回答をもらった。

- 4) 2013年、1年生～4年生の前期履修科目の科目平均点、標準偏差、CGP(平均点の分布グラフ有)、2013年卒業生の4年間分の全科目平均点、標準偏差、CGPを作成した。その他に文科省からの調査、日本看護系大学協議会の調査へ回答し、回答内容のデータを収集し共有フォルダに保存した。

3. 課題

- 1) 学生生活活動調査を夏休み期間に行ったため有効回答数が少なくなってしまった。この調査時期を見直す必要がある。また、Web アンケート等を活用して学生が容易に回答出来るように工夫する必要がある。
- 2) 散在しているデータの正確な数値を持っている部署を把握し、対象部署に対してデータを素早く提出してもらえるようにする体制が必要である。
- 3) 収集したデータをデータベース化して情報の検索を容易にする方法を検討する。

平成 24 年度大学院活動状況調査	2012 年度大学院活動状況調査データ
認定事業	2009 年度から年度ごとの認定看護管理者ファーストレベル・セカンドレベル・認定看護師教育課程(不妊症看護、がん化学療法看護、訪問看護)の応募人数、受講者数
オープンキャンパス数値	2013 年度オープンキャンパスの来場者数等詳細
日本看護系大学協議会 看護系大学の教育等に関する実態調査	2009 年度から年度ごとのアンケートの回答内容詳細
大学データ	大学に関するデータ及び各アンケートで重複する内容等を随時追加していくデータ
外部アンケート調査	「大学経営効率化」に関するアンケート調査 大学・高専等の社会・地域貢献活動に関する調査(文科省) 私学版ポートレート(仮称)に関するアンケート調査表 その他広報室が回答したアンケート
保健師資格取得教育の調査	学内 1、2、3 年生 14 大学の内協力大学 5 大学：計 377 通発送、193 通返信 特別区 23 区中 12 通返信
自己評価委員会用データ	2013 年、1 年生～4 年生の前期履修科目の科目平均点、標準偏差、CGP (平均点の分布グラフ有) 2013 年卒業生の 4 年間分の全科目平均点、標準偏差、CGP

2. 学生部 (学生課)

1. 役割・職務

- 1) 学生自治会、課外活動支援、2) チャペル関係、
- 3) 進学・就職、4) 奨学金、5) ホームページ、大学案内、6) 福利施設の利用案内

2. 活動内容

1) 学生自治会、課外活動支援：

- ・毎月 1 回の学生自治会とのミーティング、学生自治会定期総会の開催支援、学事行事、課外活動等への支援を行った。学生自治会長は、9 月まで山下奈緒子が務め、10 月より岩佐未来に交代した。今年度の総会では、自治会費の減額について検討された。
- ・自治会主催の白楊祭(学園祭)は、「雅～古こそが光端なり～」をテーマとして11月9日、10日に開催した。来場者は、1,058名(前年比-53名)であり、日野原重明前理事長、大久保暢子先生による講演会が開催された。
- ・本年度も、学生マナー委員会は、体育デーなどの学事行事等でマナーの改善を呼びかけるなどの活動を実施した。

2) チャペル委員会のページ参照

3) 進学・就職支援：

- ・就職ガイダンス2013～2014の実施：2013年4月(4年生3回目)、2013年12月・2014年2月(3年生2回)にガイダンスを実施した。就職・進学ガイドブックについては2013年版の見直しを行い、2014年版を作成、該当学生に配布した。就職ガイダンスでは、就職活動のポイントとして、就職・進学先の選定、就職試験の対策、内定を受けた後の辞退の仕方等の説明を行うとともに、卒業生の体験談を語ってもらう機会を設け、就職ならびに卒業後の進路を具体的にイメージできるように工夫した。また、適宜、個別相談に応じる機会も設けた。
- ・就職情報：卒業生による「就職・進学体験記」をイントラネットの「なでしこ」に掲載した。医療機関、行政機関等からの就職案内は、学生にわかりやすいように学生部室に整理するとともに、メールを通じて学生に情報を一斉配信するなど、学生への周知を図った。
- ・聖路加国際病院への就職については、昨年に引き続き病院関係者と話し合いを行い、病院主催の就職説明会のサポートを行った。
- ・学生の進路届時に、就職先選択理由について調査し進路相談に活用する予定である。

- 4) 奨学金：聖路加看護学園貸与奨学金や日本学生支援機構奨学金など学内外の奨学金制度に関する学生への説明、募集、選考手続、貸与または給付、返還

手続等を行った。また、来年度の大学院の授業料の変更に伴い、未来の助産師基金奨学金の採用人数及び給付金額について見直しを行い、来年度からの規程の変更を決定した。

- 5) ホームページ、大学案内：学生が快適で安心した学生生活を送ることができるよう、学業以外の支援（クラブサークル活動、学園祭、福利厚生、奨学金等）に関する情報等をホームページや大学掲示板で案内するとともに、ルカレター（学生への一斉メール）にて、適宜情報発信をしている。
- 6) 福利施設の利用案内：学生食堂、鎌倉アリスの家、ふじみ野大井テニスコート、同ターゲットバードゴルフ場、スポーツクラブオアシスの利用申込受付、日本看護学校協議会共済会共済制度 WILL の手続、アパート・学生会館の案内等の学生支援を行った。特に学生食堂については、初めて全学生・教職員を対象にアンケートを行い、その結果を今後の学食運

営の参考とした。

3. 課題

- 1) 学生自治会は本来学生主体の活動であるが、学生間の伝達がうまく機能せず、学生部からの支援を必要とした。次年度に向け、先輩から後輩への記録引き継ぎがスムーズに行われるように支援していく。
- 2) 就職・進学状況の変化や学生からの要望にタイムリーに応じるために就職・進学ガイダンスの内容を随時改変することが求められている。来年度以降も、イントラネット内の「就職・進学体験記」の充実を図り、就職・進学情報を系統的に検索できるように進めていく。また、障がいのある学生の就職支援についても検討をしていく。
- 3) 奨学生の受給状況は例年とほぼ同じようであるが、引き続き奨学金の資金獲得等を検討していく。

4. 資料データ

奨学金制度

表1 主な奨学金

名 称	対 象	貸 与 月 額	
		第一種／定額型	第二種／選択型
日本学生支援機構	学部	30,000円または、 自宅外 64,000円 自 宅 54,000円	30,000円、50,000円、80,000円、 100,000円、120,000円から選択
	大学院（修士）	50,000円または 88,000円	50,000円、80,000円、100,000円、 130,000円、150,000円から選択
	大学院（博士）	80,000円または 122,000円	
東京都看護師等修学資金	学部	第一種 36,000円	第二種 25,000円
	大学院（修士）	第一種 83,000円	第二種 25,000円
聖路加看護学園貸与奨学金 *緊急採用奨学金（学納金の額を限度とする）	学部	30,000円	
	大学院（修士）	50,000円	
	大学院（博士）	100,000円（1998年度より貸与月額改定）	
小澤道子記念奨学金	学部生	60,000円（月額、当該年度のみ）	

表2 2013年度奨学生採用状況

	奨学金の種類	配布	申請	採用	
1	高島君子記念看護奨学基金	4	2	2	
2	朝鮮奨学会	掲示のみ	自己申請	0	
3	岡村育英会	26	10	10	
4	茂木本家教育基金	5	2	2	
5	守谷育英会	13	1	0	
6	丸和育英会 休止中	—	—	—	
7	山口県人づくり財団奨学生	0	—	—	
8	石川県奨学生	0	—	—	
9	東京都看護師等修学資金（学部）第1種	3	1	1	
	東京都看護師等修学資金（修）第1種	9	4	4	
10	日本学生支援機構（1年）第1種<予約>	—	—	2	
	日本学生支援機構（1年）第2種<予約>	—	—	5	
	日本学生支援機構（1年）第1種	説明会	25	7	
	日本学生支援機構（1年）第2種	説明会		9	
	日本学生支援機構（1年）第2種【追加】	説明会		1	
	日本学生支援機構（2年以上）第1種	説明会		0	
	日本学生支援機構（2年以上）第1種【追加】	説明会		1	
	日本学生支援機構（2年以上）第2種	説明会		5	
	日本学生支援機構（修1年）第1種	15		6	6
	日本学生支援機構（修1年）第2種			2	2
	日本学生支援機構（修2年）第1種		0	0	
	日本学生支援機構（博1年）第1種		3	3	
	日本学生支援機構（博2年）第1種		1	1	
	あしなが育英会		0	—	—
川崎市大学奨学生	0	—	—		
11	聖路加看護学園貸与奨学金（学部）	8	5	5	
12	聖路加看護学園貸与奨学金（院）	8	3	3	
13	小澤道子記念奨学金（学部）	5	4	4	
	聖路加同窓会奨学金（学部、院）	9	6	1	
14	青木奨学金（修）	5	3	3	
15	ウバウバ奨学金	6	2	2	
16	小倉一春記念国際看護奨学基金（院）	—	自己申請	4	
17	有馬育英会助産師育成支援制度（修）休止中	—	—	—	
18	未来の助産師基金	4	4	2	
19	財団法人中島記念国際交流財団	学生部室保管	自己申請	—	
20	財団法人平和中島財団	学生部室保管	自己申請	—	
21	交通遺児育英会	掲示のみ	自己申請	0	
22	青峰奨学財団奨学生	掲示のみ	自己申請	0	

新規採用数合計 85

表3 奨学生内訳表

学生総数 505名 (学部学生 370名・大学院生 135名)

(単位：延人数)

学年	日本学生支援機構			東京都看護師 等修学資金	聖路加看護学 園貸与奨学金	その他奨学金	計
	一種	二種	小計				
4	9※1	15	24	1	1	5	31
学編4	4	3	7	2	3	6	18
3	10※1	13	23	3	0	3	29
学編3	2	1	3	0	1	1	5
2	5※1	13※1	18	0	3	6	27
学編2	0	3※1	3	0	2	0	5
1	9	15	24	1	—	3	28
小計	39	63	102	7	10	24	143
	10%	17%	28%	2%	3%	6%	39%
博3	0	0	0	—	1	1	2
博2	5	0	5	—	3	1	9
博1	3	0	3	—	1	2	6
修3	0	1	1	0	0	0	1
修2	5	3※2	8	2	5	14※3	29
修1	7	2	9	3	1	4	17
小計	20	6	26	5	11	22	64
	15%	4%	19%	4%	8%	16%	47%
総計	59	69	128	12	21	46	207
	12%	14%	25%	2%	4%	9%	41%

※1 緊急, 応急採用

※2 期中辞退1名

※3 期中辞退2名

表4 奨学生受給状況

奨学金の 種類 年度	日本学生 支援機構	東京都看護師 等修学資金	聖路加看護学 園貸与奨学金	その他 奨学金	受給総数 全学生数	受給率 (%)
2005(H17)	※1 101	※2 7	34	25	167/455	37
2006(H18)	※3 112	※4 10	41	26	189/476	40
2007(H19)	※5 111	13	40	29	193/480	40
2008(H20)	※2 115	19	44	33	211/477	44
2009(H21)	※1 138	20	※2 43	36	237/497	48
2010(H22)	134	19	※2 33	46	232/510	46
2011(H23)	※6 141	17	19	49	226/510	44
2012(H24)	139	21	13	45	218/510	43
2013(H25)	※1 128	12	21	※1 46	207/505	41

※1 期中辞退2名

※2 期中辞退1名

※3 予約採用5名、追加採用4名、緊急貸与1名、期中辞退者3名

※4 2口貸与1名

※5 期中辞退5名

※6 期中辞退1名、緊急貸与1名

(1)チャペルアワー委員会

1. 役割・職務

- 1) チャペルアワーの企画・運営
- 2) 「クリスマスの集い」礼拝の準備・担当
- 3) 聖路加国際病院礼拝堂のクリスマス・イブ礼拝でのプロセッション参加学生との連絡調整並びに準備
- 4) クリスマスツリーの飾り付け

2. 活動内容

- 1) 毎週水曜日（12時30分～13時）に聖路加国際病院礼拝堂で実施されるチャペルアワー（礼拝、及び聖路加国際病院関係者や教員から話を聞く月1回の「お話し会」等）を、学生委員が中心となり企画・運営した。今年度は延336名が参加した。
- 2) チャプレンを中心に、チャペルアワーの運営手順等を整備した。
- 3) 「クリスマスの集い」礼拝で、学生委員が司会や開会の祈り、聖書朗読を担当した。
- 4) プロセッションの参加者を募り、事前練習・当日準備の調整を行った。今年度のクリスマス・イブ礼拝のプロセッションには、表1の通り23名の学生が

4. 資料

表1 クリスマス・イブ礼拝プロセッション参加人数

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
第1回目	1名	7名	0名	2名	10名
第2回目	0名	6名	0名	7名	13名

(2)奨学生選考委員会

1. 役割・職務

聖路加看護大学奨学生選考委員会規程より選考委員会は下記について審議する。

- 1) 学校法人聖路加看護学園貸与奨学金の奨学生の選考および貸与奨学金の運用
- 2) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考
- 3) 独立行政法人日本学生支援機構大学院第一種学資金返還免除候補者の選考
- 4) その他の奨学生の選考
(奨学生選考委員会規程第3条)

参加した。

- 5) 大学及びチャペルのクリスマスツリーの飾り付けを、学生委員が中心となり有志を募って行った。

3. 課題

この数年、チャペルアワーの参加者が少ない状態が続いており、チャペルアワーの存在を学生・教職員に認識してもらう試みを続けている。今年度はその試みの一環として、お話し会のスピーカーの希望を募り、チャペルアワーの企画に多くの学生が参加できるようにした。また、チャペルアワーをどのように開催すれば人が集まるのか、学生にアンケート調査をした。

結果的に、今年度はお話し会への参加者数は増えたが、聖書や賛美歌に親しむ本来のチャペルアワーの参加者数増加にはつながらなかった。アンケート調査からは、お昼休みというチャペルアワーの時間帯が参加を阻害する要因となっているわけではないことが伺えたが、それ以上のことは分からなかった。チャペルアワーへの参加者数を増やすことを目的とするだけでなく、キリスト教の大学として、チャペルアワーの意義を教職員・学生が考えることを促す取組みが必要であり、次年度はその取組みを具体的に検討していくことが課題であると考えている。

2. 活動内容

- ・ 計7回の委員会を開催し、提出された各奨学生申請書について選考した（資料参照）。地方自治体奨学金の内、学内の推薦が必要な制度についても選考委員会にて協議した。また、これ以外に、聖路加看護学園貸与奨学金緊急採用について臨時会議を1回開催した。
- ・ 未来の助産師基金、ウパウパ奨学金について、来年度からの規程の変更を決定した。

3. 課題

病院との法人一体化に向け、既存の学内奨学金の規程の見直しや、さらなる資金確保の必要があると思われる。

4. 資料

表

	開催日	選考奨学金名	申請人数	推薦決定人数
1	4/23	茂木本家教育基金	3	2
		高島君子記念看護奨学基金	2	2
		岡村育英会	18	10
		守谷育英会	3	1
2	5/14	東京都看護師等修学資金	5	5
		日本学生支援機構学部定期採用	27	20
3	6/4	日本学生支援機構大学院定期採用	12	12
4	7/2	小澤道子記念奨学金	4	4
		聖路加同窓会奨学金	6	1
		聖路加看護学園貸与奨学金	8	8
5	7/16	青木奨学金	3	3
		ウパウパ奨学金	2	2
6	11/5	未来の助産師基金	4	2
		聖路加看護学園貸与奨学金緊急採用	1	0
7	3/18	日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者	2	2

(3)健康管理室

1. 役割・職務

学生・教職員がより健康で充実した大学生を送れるよう健康管理、感染管理、応急対応・健康相談、健康増進のための支援をする。今年度の重点目標は、学生健康管理データの電子化と効率的な運用、B型肝炎の免疫獲得の必須化の継続とした。

2. 主な活動内容（表1参照）

1) 健康管理

- ① 新入生へ健康管理オリエンテーション、健康手帳の発行、保健面接
- ② 学生定期健康診断の準備・実施と有所見者のフォローアップ
- ③ 教職員定期健康診断の手配、私学共済補助金申請・労働基準監督署への結果報告
- ④ 実習オリエンテーション（感染予防と心身の健康管理）
- ⑤ 健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応（メール、面談、医療機関紹介）
- ⑥ 体調不良の学生への支援（面談、受診手配）

⑦ 学生基礎情報・健康診断結果・診断書・免疫状況等の電子化と運用

⑧ 次年度健康診断準備

2) 感染管理

- ① 入学時、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の罹患・予防接種歴調査票回収と把握
- ② 入学時4種抗体検査結果の個別通知、免疫未獲得学生の実習前ワクチン接種の確認
- ③ 新入生及び前年度陰性の学生へのツベルクリン反応検査（2段階法）実施
- ④ 定期健康診断B型肝炎抗体検査結果の一斉個別返却、免疫未獲得学生・保護者へ安全と健康のための年度内ワクチン接種を通知、接種機関の紹介、接種確認
- ⑤ 実習で結核に曝露した学生への対応
- ⑥ インフルエンザ等感染症罹患学生への対応と感染拡大防止のための対応
- ⑦ インフルエンザ予防接種の実施
- ⑧ 海外渡航における予防接種の情報提供
- ⑨ 認定看護師教育課程の健康診断結果と免疫獲得状況把握と管理

3) 応急対応・健康相談

-
- ① 学生及び教職員のケガ・体調不良などの身体的健康問題に関する応急対応
 - ② 学生の実習などのストレスによる精神的問題に関する対応
 - ③ 校医・近医の紹介と連携
 - ④ 学内カウンセリングへの紹介、カウンセラーとの連携
 - ⑤ 入学試験・学内行事の救護待機
 - ⑥ 防災対策（救護用備蓄品整備、救護訓練実施）
- 4) 健康増進のための支援
- ① 感染症（インフルエンザ・感染性胃腸炎等）に関する情報提供
 - ② 学生保健委員会の開催（クラスへの保健情報伝達）

- 5) 就職活動・インターンシップ参加等の支援
 - ① 健康診断書、抗体検査結果・ワクチン接種履歴確認書の発行
 - ② 就職・インターンシップ先提出書類（保健関係）に関する相談への対応

3. 課題

- ① 電子化データの安全・効率的な運用
- ② 健康管理に関する個人情報の扱い方の検討
- ③ 大学行事としての定期健診時間の確保
- ④ 精神面で問題を抱える学生の対応強化
- ⑤ 2013年度新設の衛生委員会の有効な運用

4. 資料・データ

表1 2013年度 健康管理 活動内容

活動内容	分類	年間主要業務	対象者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 健康管理	①	新入生健康管理オリエンテーション・健康手帳・健康状態調査票配布	新入生	→											
	①	新入生の保健面接	新入生	→											
	②	定期健康診断（於：予防医療センター 血液検査・胸部X線）の実施	全学生		→										
	②	尿検査・血圧・体重・身長測定（於：健康管理室）	全学生		→										
	②	校医による内科健診	全学生			→									
	②	定期健康診断・内科健診結果の有所見者フォロー	対象者												
	③	35歳未満教職員健康診断（於：予防医療センター 学生定期健診内）	教職員		→										
	③	35歳以上教職員健康診断（於：予防医療センター 半日人間ドック）対応	教職員			→									
	④	実習オリエンテーション	対象者		→										
	⑤	健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応	全学生		→										
(2) 感染管理	⑥	体調不良の学生への支援	対象者												
	⑦	全学生健康管理データの電子化と運用	全学生												
	⑧	次年度健康診断準備	全学生・教職員												
	⑧	健康手帳の改訂・発行準備、雇用時健診対応	新入生・新教職員												
	①	入学時抗体検査結果個別通知、水痘の罹患・予防接種履歴回収と把握	新入生	→											
	②	入学時抗体検査結果個別通知、免疫未獲得学生のワクチン接種確認	対象者		→										
	③	「A型肝炎検査結果の一斉個別通知	新入生・対象者		→										
	④	B型肝炎抗体検査結果の一斉個別通知	全学生			→									
	④	B型肝炎抗体検査結果の提供、接種確認	対象者・その保護者												
	④	B型肝炎ワクチン接種（於：高尾クリニック）予約調整・予診対応	対象者												
(3) 健康相談・成急対応	⑤	結核に暴露した学生への対応	対象者												
	⑥	感染症（インフルエンザ他）罹患者への対応	対象者												
	⑦	インフルエンザ予防接種（於：高尾クリニック）予約調整・予診対応	実習生・希望者												
	⑧	海外渡航における予防接種、HPVワクチンの情報提供と相談	希望者												
	⑨	認定看護師の健康診断結果と免疫獲得状況の把握と管理	対象者												
	①②	ケガ・体調不良・精神的健康問題に関する成急対応	全学生												
	③	校医・近医の受診紹介と連携	全学生												
	④	学内カウンセリングへの紹介、予約	全学生												
	⑤	入学試験・学内行事の救護、待機	全学生		→										
	⑥	防災対策（救護用備蓄品、救護訓練）	全学生・教職員		→										
(4) 健康増進の為の支援	①	インフルエンザ・感染性胃腸炎などの感染症に関する情報提供	全学生		→										
	②	学生保健委員会の開催	全学生		→										
(5) 就職活動支援	①	健康診断書、抗体検査結果・ワクチン接種履歴確認書の発行	対象者												
	②	就職先提出書類（保健関係）に関する相談への対応	対象者												

表2 健康管理室 対応一覧

(人)

月	体調不良・けが等身体的理由	相談			報告	健診・予防接種関連	カウンセリング予約・変更等	その他	教職員	認定	卒業生等	Bワク予約	Bワク問診	インフル予約	インフル問診	合計
		身体的	心理的	その他												
4	30	17	7	10	9	40	4	9	7	0	1	2	2	0	0	138
5	54	3	3	2	7	34	3	22	7	2	0	7	7	0	0	151
6	45	10	7	10	12	9	1	10	3	1	2	51	51	0	0	212
7	50	10	10	5	12	1	2	14	3	0	0	52	52	0	0	211
8	2	1	2	4	5	0	0	5	3	1	0	0	0	0	0	23
9	18	5	5	4	6	0	1	13	10	4	0	3	3	0	0	72
10	22	10	2	6	7	3	0	17	6	0	0	3	3	202	202	483
11	29	8	7	4	6	4	0	18	8	0	2	0	0	29	29	144
12	21	2	3	7	4	0	0	20	3	0	0	17	17	0	0	94
1	14	2	1	9	10	2	0	9	5	0	0	15	15	0	0	82
2	3	2	4	7	8	1	0	13	8	0	0	7	7	0	0	60
3	5	1	1	11	4	1	0	17	3	0	0	7	7	0	0	57
合計	293	71	52	79	90	95	11	167	66	8	5	164	164	231	231	1,727

表3 麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘 ワクチン接種対象者

(2013年4月入学時健診結果)

(人)

学年	在籍	麻疹		風疹		流行性耳下腺炎		水痘	
		抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種	抗体(-)	ワクチン接種
1年	80	32	5	9	4	24	23	8	8
学士2年	19	13	9	1	1	4	4	1	1
合計	99	45	14	10	5	28	27	9	9

※抗体(-)でワクチン接種歴2回未満の者を接種対象とした

表4 B型肝炎ワクチン接種対象者

(2013年4~5月定期健診結果)

(人)

学年	在籍	HB抗体(-)	ワクチン接種開始
1年	80	72	72
学士17回生	19	17	17
2年	76	4	3
3年	72	13	5
学士16回生	20	2	2
4年	85	17	5
学士15回生	21	6	1
合計	373	131	105

表5 ツベルクリン反応検査結果 (2013年5~6月 検査実施)

(人)

	学生数	検査対象者	1回目検査実施			2回目検査			来年度検査
			実施者	陽性	陰性	実施者	陽性	陰性	
1年生	80	80	80	60	20	20	15	5	5
学士17回生	19	19	19	13	6	6	2	4	4
修士1年生	37	37	30	24	6	6	2	4	4
博士1年生	13	12	12	9	3	1	0	1	3
昨年度陰性	17	17	16	4	12	5	2	4	11
前年度未検査	1	1	0	0	0	0	0	0	0
計	167	166	157	110	47	38	21	18	27

表6 学生定期健康診断

(人)

学年	学生数	予防医療センター受診(2013.4~5)			他院受診	休学
		受診者数	血液検査	胸部X線		
1年生	80	80	80	80	0	0
2年生	76	75	75	75	0	1
学士17回生	19	19	19	19	0	0
3年生	72	72	72	72	0	0
学士16回生	20	20	20	19	0	0
4年生	85	84	84	83	0	1
学士15回生	21	21	21	21	0	0
修士1年	37	28	28	27	2	
修士2年	40	33	33	33	4	
修士3年	7	1	1	1	1	
博士1年	13	6	6	6		
博士2年	12	6	6	6	1	
博士3年	25	3	3	3	1	
計	507	448	448	445	9	2

表7 教職員定期健康診断

(人)

年度	35歳未満	35~40歳未満	40歳~75歳未満(特定健診)*1		
			私学共済加入	受診	受診率
2012年度	8	11	61	59*2	96.7%
2013年度	7	14	62	57*3	91.9%

*1：予防医療センター半日ドック利用者

*2：他院受診者2名を含む

*3：他院受診者(結果未提出のため)含まず

表8 カウンセリング

(件)

月	利用数
4	7
5	5
6	7
7	6
8	休み
9	3
10	1
11	6
12	4
1	4
2	2
3	2
合計	47

表9 学内メール

kenkou 対応 (件)

月	学生・教職員へ 返信・送信
4	159
5	278
6	59
7	15
8	32
9	99
10	69
11	39
12	24
1	27
2	27
3	48
合計	876

表10 健康診断書等発行件数

(件)

月	健康診断書	抗体検査結 果等確認書
4	0	0
5	114	0
6	28	0
7	6	0
8	2	0
9	2	1
10	0	0
11	0	1
12	1	1
1	2	4
2	0	15
3	6	0
合計	161	22